絆（きずな）から生まれた支援・大崎市の情報をウェブサイトで代理掲載

姉妹都市・北海道当別町

大崎市の災害対応にあたってくれた当別町職員の皆さん

絆から生まれた支援

東日本大震災直後、大崎市のウェブサイトが停止したため、当別町が代わって大崎市の情報を掲載してくれました。約１週間に及んだ代理掲載期間中、閲覧数は、通常の 10 カ月分に相当する 13 万件を超えました。また、当別町では支援物資とともに職員を大崎市に派遣し、多方面で本市を支えてくれました。

あの日、当別町に被害はなかったものの、大きな揺れに驚きました。情報収集のためにつけたテレビでは、沿岸部のことばかりが報道され、内陸部のことはほとんど伝えられません。電話もウェブサイト（以下、サイト）も繋がらず、大崎市の状況を知るすべはありませんでした。

そんなとき、一本の電話が鳴りました。大崎市からです。「サイトが故障したため、復旧するまで大崎市の情報を当別町のサイトに掲載してほしい」という依頼でした。すぐに情報担当の職員で準備を始め、その日の午後六時には第一報を当別町のサイトに掲載しました。その後も、衛星電話やメールなどで届く情報をもとに更新し続けました。

宮城県が「大崎市の情報が当別町のサイトに掲載されています」と紹介したこともあり、翌日から問い合わせが相次ぎ、当別町役場の電話は鳴りっぱなしでした。多くは知人の安否を尋ねるものでしたが、当別町でも詳しい情報までは分からず、個人の安否は答えられませんでした。それでも「大崎市と連絡が取れていることを知っただけで安心した」という人がほとんどで、中には安堵感で泣き崩れる人もいました。

当別町が緊急支援物資を準備し、トラックとフェリーを手配できたのは四日後で、物資とともに、災害派遣職員が大崎市に入ったのは七日後のことでした。

遠く離れた地からの支援は距離と時間の壁がありますが、ウェブサイトの代理掲載という今回の連携は、遠隔地からの支援の可能性を広げるものでした。この経験を、当別町の災害対策にも生かしていきます。

他自治体からの支援

①姉妹都市・愛媛県宇和島市からの救援物資②深夜にもかかわらず救援物資を届けてくれた姉妹都市・東京都台東区③自然と共生するまちづくりを目指して本市と交流を深める栃木県小山市は、断水している地域に飲料水を提供してくれました④コウノトリが縁で本市と交流がある兵庫県豊岡市は、がれきの撤去を手伝ってくれました

震災の記憶を残すために記録誌を作成

古川西部コミュニティ推進協議会

震災の記憶を残すために

古川西部コミュニティ推進協議会（我妻仲（しずか）会長）では、これまで経験したことのない最大の地震災害を忘れないように、地域の皆さんの声や写真などをまとめ「震災の記憶」という記録誌を作りました。後世に残る貴重な資料がどのようにして完成したのかを語っていただきました。

震災時は、地域内でも多くの人が小学校に避難し、地域の公会堂にも多い時で六十人ほど避難しました。

食料や水の確保などで協力できたのは、日ごろから隣組同士で災害に備えてきたおかげだと思います。

その後、テレビやラジオなどで震災の恐ろしさをあらためて知りましたが、やがて津波と原発事故だけが取り上げられることに疑問を感じ、いつしか震災のことを忘れてしまうのではないかと思いました。

この地域でどんなことが起こったのかを後世に残す必要があると感じ、宮袋行政区で毎月発行している「宮袋だより」の編集委員五人が中心になって、記録誌の編集が始まりました。

さっそく何人かに、あの日の体験を書いて欲しいとお願いしました。辛いことを思い出したくない人もいるでしょうし、どれだけ原稿が集まるのか不安でしたが、たくさんの人が呼びかけに応えてくれました。

仕事先から、やっとの思いで家にたどり着いた人など、寄せられた原稿を見て、あの日、一人ひとりが地震と向き合って懸命に生きてきたことを知りました。

辛い思いを乗り越え作ったこの記録誌には、特別な思いが込もっています。

01_ 左から、編集委員の高橋美奈子さん、鹿野みや子さん、編集委員長の遠藤静好さん
02・03_ 記録誌「震災の記憶」
04_ 古川地域宮袋・我妻仲（しずか）区長

3.11 おおさき震災復興フォーラム

東日本大震災に学ぶ…あの日を忘れない。
～地域の役割、行政の役割～

東日本大震災から１年が過ぎた今、自主防災組織、行政区長、消防団、民生委員児童委員、企業、ボランティアなど、それぞれの立場から、被災した状況や震災対応の課題をともに共有し、今後の対応と復興に向けた「地域の役割」と「行政の役割」を探ります。

日時　**3** 月 **11** 日(日)　午後１時～４時
　　第１部　午後１時～
　　第２部　午後３時 10 分～
場所　大崎市民会館

第１部　フォーラム
◆パネルディスカッション
パネリスト
石澤　京子氏（田尻まちづくり協議会副会長）
鈴木　賢治氏（江合親睦会長・自主防災担当）
髙橋　鉄夫氏（鳴子まちづくり協議会長）
畑中　敏亮氏（松山地域　前行政区長）
伊藤　康志　（大崎市長）
コーディネーター
古川　隆氏　（宮城大学地域連携センター調査研究部長）

◆合唱「心ひとつに～夢と希望と決意をもって～」
復興への想いを込めて先生が作った歌を、古川北中学校の生徒の皆さんが歌います。

第２部　復興支援コンサート「安田智彦 BIG BAND」
仙台で開催されている「定禅寺ストリートジャズフェスティバル」を立ち上げた一人でもある安田智彦氏の BIG BAND です。